

地域生活サポートセンター ぴぼっと南光台



# 南光台通信 第16号



たくさんの笑顔があふれていました♪



東北福祉大学サークル「そら」さんの冬の企画で、クリスマスツリーの創作やケーキのトッピング、ゲームやダンスなど…

とっても楽しい時間をすごしました♡

発行： 社会福祉法人 つどいの家 地域生活サポートセンターぴぼっと南光台  
発行責任者： 飯田 克也 (管理者) 発行日： 2019年3月11日  
住所： 〒981-8003 仙台市泉区南光台3丁目1-24  
連絡先： TEL022(779)7341 FAX022(779)7342

# お知らせ～ぴぼっと南光台の事業編成について

『ぴぼっと南光台』は平成26年7月に地域交流スペースを兼ね揃えた仙台市障害者家族支援等推進事業（レスパイトサービス）「すってぷ・はうす」新棟と指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業「ゆあらいふ」を加えスタートし、同年10月に障害者ホームヘルプサービス「ぺんたす」を加え現在の編成となり、4年半程が経過いたしました。



現在、しょうがい福祉を取り巻く予算は年々厳しさを増しており、さまざまな事業で基本報酬が引き下げられ、多様な加算報酬によって事業運営を成り立たせる仕組みに制度自体が変化している状況です。

そのような中で、相談支援事業、ホームヘルプサービス事業共にこれまでの運営形態では先々の事業運営自体が危ういものになりかねないとの判断から、事業体制を再編することといたしました。

## ●相談支援事業について

平成31年3月末で「ゆあらいふ」を廃止し、平成31年4月1日より当法人が運営する地域生活サポートセンター『ぴぼっと支倉』の「とびら」と統合いたします。「ゆあらいふ」をご利用いただいていた方は、これまで通り引き続き「とびら」を窓口とし、ご利用を継続できます。

## ●ホームヘルプサービス事業について

平成31年4月1日より当法人が運営する地域生活サポートセンター『ピボット若林』のホームヘルプサービス事業「ぴぼっと」の機能を分け、一部を『ぴぼっと南光台』の「ぺんたす」と統合いたします。「ぴぼっと」および「ぺんたす」をご利用いただいている方にはこれまで通りにヘルパーを派遣いたします。

新たに契約の手続き等が必要となる方々にはお手数をおかけいたしますが、安定的・継続的に事業を運営していくための方策ですので、ご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

また、各関係機関の皆様におかれましてもご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただければ幸いです。

地域の皆様には変わらず、地域交流スペース「すてっぷサロン」をご利用いただけますので、ぜひご利用ください。

今後も皆様方とのつながりを大切にしながら、地域の中で、しょうがいのある方の生活支援に取り組んで参りますので、ご理解とご協力の程よろしくようお願い申し上げます。

(事務・山口)



## ※「ゆあらいふ」廃止後の連絡先

『ぴぼっと支倉』 相談事業「とびら」

住所：980-0824 仙台市青葉区支倉町 2-35  
電話：022-261-3664 FAX：022-261-3661

## ～研修報告～



### 仙台市難病患者等ホームヘルパー養成研修を

#### 受けて思ったこと…

平成 30 年 4 月より、障害福祉サービスの対象となる難病は 359 疾病に拡大されました。様々な疾病があり、見た目には判断が難しく周囲から理解されない病気もあります。

診断が付いて心の準備ができるまでには時間もかかることでしょう。療養における不安、孤独感、苦痛、生活のしづらさを感じている方も少なくはありません。ご家族もご本人同様に不安を抱え介護が必要になれば生活も圧迫されご家族の負担も大きくなります。

そのような時に病気をきちんと理解したホームヘルパーが生活の手助けになればら！と、思います。「生活の質は保ってほしいな・・・」「毎日誰か来るのは嫌だな・・・」など、ご家族それぞれの思いもある事でしょう。その思いを大切に、支援者がイケイケっ！にならない様に共に考える支援を行っていきたく感じました。

余談ですが・・・

「もやもや病」って聞いたことありますよね？もやもや病という名前は仙台の医師が名づけた全世界共通語なんですよ！（英・Moyamoya disease）（ヘルプ・佐伯）

## ～避難訓練～



### 火災避難訓練

昨年 11 月にぴぼっと南光台にて防災部分訓練を実施しました。

今回は夜間帯で宿泊介護時のキッチンからの出火の想定でした。

火災発生時の出火場所の特定、消火作業、利用者の避難誘導、消防への通報等、限られた人数の中で優先すべき状況を判断し、効率よく安全に避難できるかを参加者全員で意見を出しあいながら、一人ひとり真剣に取り組んでいました。

これからも、皆さんに安心してサービスを利用し続けていただけるように職員全員が防災についての意識を高め、事業に携わっていきたく考えております。

（レスパイト・児玉）

# ヘルパー研修会

11月18日(日)福祉プラザにてぴぽっと、ぺんたす合同で「介助される方の気持ちを知ろう」をテーマに、登録ヘルパーさんを対象に研修を行いました。理解出来ないまま一方的に指示される事の不安さ、コミュニケーション時に生じる感覚的な歯がゆさをより具体的に参加者の皆さんに体験して頂きました。

## 「一方的な指示で折り紙を折る」

一つ目は折り紙を言葉だけの指示で折る事をして頂きました。折る題材は伝えず、折り方の指示を出します。会場ではブーイングの嵐!「全然折り方が分からないー!」と嘆く方もいれば、途中で手を止めてしまう方もいましたが、折り紙の説明書を全員に配布してから折ってもらうと、文字と絵の情報が加わり、個々によって得意不得意はありましたが全員が折り紙を折る事が出来ました。

## 「意味の分からない言葉で指示を出し、受ける」

二つ目は架空の言語で指示を出すレクリエーションを実施しました。二人一組のペアを作り、指示者と指示を受ける者に分かれます。指示者はメモを見ながら数単語で形成されている架空の言語の指示を出し、指示を受ける側は指示通りに動くという内容です。当然ながら架空の言語だけでは何も伝わりません。ですが、ジェスチャーを付けたり、一単語ずつ和訳する事で全く理解出来なかった事から少しずつ内容が伝わっていきます。また指示者も工夫をして、より細かな動きで伝えようとします。このレクリエーションも最終的には全グループが指示を理解する事が出来ていました。

全体を通して一方的に指示される事の不快さや、自分が理解出来ないままに話を進められる不安さを体験する事が出来たのではないかと思います。普段何気ない利用者さんとの会話や関わりの中で、支援者目線の言動になっていませんか。コミュニケーションを取るという事は、人と関わる中で一番大切な事だと思います。今回はなかなか汲み取る事の難しい「気持ちや感情」を客観的に捉え、体験し、考える事が出来たと思います。

(ヘルプ・高橋和也)

---

## 発達障がい研修

12月1日(土)に白百合園にて植竹安彦氏を講師とした宇佐川研(発達障がい臨床研究会)に参加して来ました。「平衡感覚を制する者は特別支援を制する」と、植竹氏は言います。

私たちの体には自覚しやすい五感と、自覚しにくい感覚があります。自覚しにくい感覚の中に固有感覚と平衡感覚があり、平衡感覚の反応が低いと平衡感覚の刺激を補う為、車椅子が傾く程体を揺さぶったり、落ち着きが無く室内を走りまわるような行動をしてしまうそうです。

固有感覚は筋肉や腱のセンサーの様な役割をするところで、この感覚の働きにつまずきがあると、鉛筆が上手く握れなかったり、力加減の調整が出来なく、動作が大きくなり、乱暴な人と勘違いされてしまう事があるとの事で、これは常に全力疾走で生活されているようなイメージだそうです。このカバランスの調整に関しては五感の「触覚」も関係しているようで、人には識別系触覚(知的機能を担う)と原始系触覚(命を守る本能機能)があり、触覚が過敏な方は識別系の触覚(反応)が働かず、原始系の命を守る最上級の防衛本能が常に働いてしまっているとの事でした。しかし、このような感覚過敏な方に対して適切に「感覚」を刺激して対応する事により、誤解されがちな行動、動作が緩和するそうです。

平衡感覚の反応を高める為にはブランコやトランポリン、ボールバレーンに乗る運動をすると、体の揺さぶりが少なくなったり、動作の多い方も動作が小さくなり、発声できたという方もいるそうです。

障がい特性として他害や自傷行為がある方達の背景にはこのような人間の感覚のしくみに関係しているという新たな発見をする事が出来ました。論理的に考える事で適切な関わり方が見つかる。私には全くなかった考え方で、とても勉強になった一日でした。新しい切り口から、新しい関わり方を提供する為に学んだ知識を活かせるよう努めていきたいと思っています。

(ヘルプ・高橋和也)



## そら『冬企画』



昨年12月16日、貝ヶ森市民センターで、東北福祉大サークル「そら」による『冬企画』が行なわれました。今回はすてっぴ・はうすの利用者さん3名と介護人4名が参加しました。

当日は大きなクリスマスツリーの創作から始まりました。模造紙のツリーにカラーペンを使用して、キャラクターを描いたり、学生さんとの会話を楽しみながらシールを貼ってデコレーションをしました。

次は、ケーキのデコレーション♪ポッキーやクッキーをトッピングして華やかなケーキが出来上がりました。

その後はパフォーマンスタイム！利用者さんがABCの曲に合わせて体全体でリズムをとりながら踊り始めると、もう一人の利用者さんも踊りたい！！と、手を挙げて参戦！普段は見せない積極的な姿を見せてくれました。年間を通して「そら」さんの様々な企画に参加し、利用者さん、介護人、職員みんなが楽しく過ごすことができました。

本当にありがとうございます。

来年度も様々な企画を楽しみにしています！（レスパイト・佐藤）



### ●介護人さん募集

「すてっぴ・はうす」からのお願いです！



利用者さんと一緒に過ごしてくれる介護人さんを募集しています！必要に応じて、排泄や食事の介助をしていただきます。

～ 手当、応募条件 ～

- ・日中介護 時給900円、宿泊介護 7,400円
- ・資格は問いませんが面接の上、すてっぴ・はうすと生活介護事業所等で研修をしていただきます。

### ●使わなくなった色鉛筆・CDなどはございませんか？

「すてっぴ・はうす」では、様々な年代の利用者さんが思い思いの時間を過ごしています。創作や音楽鑑賞をしたり、お散歩をしたり、お昼寝をしたり、のんびりコーヒーを飲んだり…。

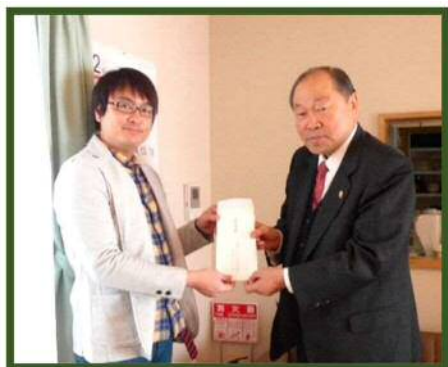
ご自宅で使わなくなった色鉛筆・画用紙・折り紙など創作で使える物や童謡・アニメ・戦隊もの等のCDがあれば、「すてっぴ・はうす」へ譲って頂けないでしょうか？

譲っていただける方は**ぴぽっと南光台**へ直接お持ちいただくか、ご連絡をください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

時間：10時～18時 ☎779-7341 担当：児玉・佐藤

## ご寄付をいただきました



去る2月12日  
「一般社団法人 仙台建設業協会」様より  
すてっぷ・はうすへご寄付をいただきました。



すてっぷ・はうすはたくさんの利用者さんが日中や  
夜間の宿泊でご利用になります。

災害に備え、利用者さんの安全を確保するための防災備品購  
入に使わせていただきます。

ありがとうございました。

## おいしくいただきました

昨年の11月26日  
「宮城県麺類飲食業生活衛生同業組合」様より  
昼食を振舞っていただきました。



当日は仙台つどいの家の利用者さん・職員、ぴぼっと南光台の職員が、  
清水屋南光台店さんのラーメンや大きなエビが入った天丼、お蕎麦  
をおいしくいただきました。

清水屋南光台店さんには、つどいの家後援会の募金箱を置いていた  
だいています。職員がお昼に出前をとることもあります！！  
いつもお世話様です。



ごちそうさまでした♪

～編集後記～

2月25日家で飼っているウントコ星の亀が冬眠から眼を覚めました。「春ですよ、春が来ましたよ。」  
今年は雪が少なく暖かい日が続いていたため早々に眼が覚めたみたいです。

先日、すてっぷ・はうす内の椅子カバーが新しくなりました。つどいの家の利用者さんのお母さまに作  
っていただきました。真心がとてこもっていて素敵です。どうもありがとうございます。

今年度も、皆様にお世話になりました。来年度も「ぴぼっと南光台」をどうぞよろしくお願ひ申し上げま  
す。(レスパイト・佐藤)